あおじろい【青白い】

① 少し青さの感じられる白い色に見える様子。

・夜遅く会社を出ると、空に**青白い**月が出ていた。

・月の明るい夜は、庭にある物が**青白く**見える。

② 病気の後や体の調子が悪いとき、顔の色がいつもと違う様子。

・一か月入院していた母の顔色は、まだ少し**青白い**。

・失敗に気づいた友人は、**青白い**顔で相談に来た。

あおる

① 風が強く吹いて、物を動かす。

・台風が近づくと、風に**あおられ**木の葉が忙しく動く。

・風に**あおられた**火の粉(こ)で、近所が大騒ぎになった。

② 人が思っている事を、もっと強く、大きくするような事を言う。

・不安を**あおる**ような友人の言葉に、心配になった。

・言い合いを**あおる**ような事を言う社員を強く注意した。

あかし【証し】

した事や言った事などが正しい、間違いないということを多くの人にわからせる事や物。

・生きた**証し**として、使い続けられる商品を作りたい。

・大事な仕事を頼まれるのは、周りに信じられている**証し**だ。

あからさま【あからさまナ・ニ】

隠さないで、相手や周りの人によくわかるように言い、見せる様子。

・ほかの社員への**あからさまな**文句には、返事をしない。

・注意すると、**あからさまに**嫌な顔をする社員はやりにくい。

―あがる【―上がる】

(―(し)上がる)の形で、ほかの言葉と一緒に使って、最後までできたと伝える。

・新しい商品は、でき**上がる**までほかの人には見せない。

・計画書が書き**上がる**まで、ほかの仕事ができなかった。

★最後までやってしまうときは(―上げる)と言う。

・今回の商品は、作り**上げる**までに二年もかかった。

あきめく【秋めく】→はるめく

あきらか【明らかナ・ニ】

誰が考えてもそうだと、はっきりわかる様子。

・社員の**明らかな**間違いなので、すぐに相手に連絡した。

・問題を**明らかに**するため、みんなで原因を調べた。

い

いあわせる【居合わせる】

特別な事があったときに、関係の無い人がそこにいる。

・交通事故に**居合わせて**、本当に怖いと思った。

・近所で火事があったとき、**居合わせた**人たちで消した。

いいがかり【言い掛かり】

本当かどうかは関係無く、相手を困らせるために言う言葉。

・**言い掛かり**をつけるために電話をかける人がいて、困る。

・商品でけがをしたと言われたが、調べると**言い掛かり**だった。

いいかげん【いい加減ナ･ニ】

① 守らなければならない事や必要な事などを正しく、決められたようにできない様子。

・時間に遅れるのは、**いい加減な**人間のする事だ。

・会議で**いい加減な**返事をして、注意された。

② 味や明るさ、温度などがちょうどいいと感じられる様子。

・母の料理は、いつも**いい加減**に味付けされている。

・温度が**いい加減**の風呂に入ると、仕事の疲れを忘れる。

③ もう許せない、これ以上は嫌だなどと伝える言い方。

・長く続く工事の音に、もう**いい加減に**してほしいと思う。

・何度も同じ事を言って、**いい加減に**しろと叱られた。

★→うんざり

いいきかせる【言い聞かせる】

相手がじゅうぶんわかるまで、よく話をする。

・なぜできないか、若い社員に理由を説明して**言い聞かせた**。

・時間をかけて**言い聞かせて**も、わからない人はいる。

いいきみ【いい気味】

嫌いな人や悪い人が、失敗したときや困っているときなどに、良かったと思う気持ち。

・人の失敗を見て**いい気味**だと思う自分は、嫌だ。

・同じような物を作った会社が失敗するのは、**いい気味**だ。

★映されている様子を 映る と言う。
・池に**映る**月の絵がとても美しく、高い買い物をした。

うっすら【うっすら(と)】
はっきりしないが、よく見ると、よく考えるとそうだと思える様子。
・寒い朝、カーテンを開けると、庭が**うっすら**白くなっていた。
・大学時代の知り合いから電話があり、話している間に相手の顔を**うっすらと**思い出した。

うったえる【訴える】
① 困った事や間違った事などを、良いか悪いか決めるために、警察などに伝える。
・会社の金を使った社員を、社長は**訴える**と決めた。
・公園でけがをした子供の親が町を**訴え**、騒ぎが続いている。
② 痛さや苦しさなどを周りの人に強く伝える。
・頭が痛いと**訴える**妻が心配で、病院へ連れて行った。
・生活の苦しさを**訴える**お年寄りを、町は色々相談して助けている。
③ 周りによく相談しないで、特別な力を持つ人や金などを使ってやりたいようにする。
・金の力に**訴えて**建物を作る計画に、町は強く反対した。
・友人は、社長の力に**訴えて**も新商品を作ると言い出した。

うっとうしい
① 天気が悪いとき、嫌だと思う事や心配事があるときなどに、心が重く暗くて、何もしたいと思わない様子。
・雨が続くと、**うっとうしくて**何もしたくない。
・友人との間がうまくいかなくて、毎日**うっとうしい**気持ちだ。
② 人や物などが気になって、ゆっくりひとつの事ができない様子。
・髪が長くなって**うっとうしい**ので、切りに行った。
・夏の夜は、部屋に虫が入って来て**うっとうしい**。

うっとり【うっとり(と)スル】
美しい物を見る、好きな音楽を聞くなどして、ほかの事を忘れるほど良い気持ちになる様子。
・秋の空を**うっとりと**見ていると、ふるさとを思い出す。
・育てた花を見て**うっとりして**いる妻は、幸せそうに見える。

うつぶせ【うつ伏せ】→うつぶせる

うつぶせる【うつ伏せる】
顔とおなかを下に向けて寝た形になる、また、物を下に向けて置く。

な

ないがしろ【ないがしろニ】

大切にしなければならない事や人、物などを、軽く考えて大切にしない様子。

・人の意見を**ないがしろに**する人間は、信じられない。

・社会には、**ないがしろに**されている人たちが多くいる。

―ないことには

必要な事などがあって、それが無ければ先には進まないと伝える言い方。

・社長が**来ないことには**、会議が始められない。

・よく**調べないことには**、失敗の原因はわからない。

ないしょ【内緒】

人に知られたくない事などを、誰にも言わない様子。

・少し熱があったが、誰にも**内緒**にして会社へ行った。

・みんなには**内緒**だと言って、友人が新しい計画を話した。

★内緒にしている事を（秘密（ひみつ））と言う。

・妻とは、何も**秘密**にしないと約束して結婚した。

―ないまでも

（―（しない）までも）の形で、次のように使う。

①　すべてでなくてもいいから少しでもそれに近くなってほしい、近づきたいなどと願う様子。

・全部とは言**わないまでも**、商品は少しでも売れてほしい。

・父ほどは**できないまでも**、毎日少しでも歩くようにしている。

②　言葉のとおりではないが、それに近い様子。

・すべてとは言**わないまでも**、駅前の古くからある店が大きく減った。

・辞めさせは**しないまでも**、教え直す必要のある人は多い。

―ないものか

疑問の形で、できないだろうと思うが、そうなるといいと願っている気持ちを伝える言い方。

・みんなが必要とする商品が**できないものか**と考えている。

・戦争をしないで平和に暮らせる時代は**来ないものなのか**。

なお【尚】→ほそく

にたりよったり【似たり寄ったり】★→いちよう

ほかの物と違う所や新しさなどが無くて、珍しくない、面白くないなどと伝える言い方。

・社員の出した計画は、みな**似たり寄ったり**で使えない。

・**似たり寄ったり**の考えの人がする仕事には、新しさが無い。

—にちがいない【—に違いない】→ちがいない

—につきる【—に尽きる】→つきる②

—につけ

(—につけ〜につけ) という形で、同じ様な意味の言葉、また、反対の意味の言葉と一緒に使って、どちらでも同じような様子だと伝える言い方。

・**雨につけ風につけ**、母はふるさとを思う様子だ。

・**いいにつけ悪いにつけ**、両親が近くにいると安心する。

★機会があれば、同じようにすると伝えるのに (何かにつけ) と言う。

・色々な理由で、**何かにつけ**仕事を休む社員には困る。

にっこり →にこにこ

—につれて →つれて

—にとって ★→—にしてみれば

関係のある人たちや自分の経験などから考えると、特別な意味があると伝える言い方。

・空き家を無くす事は、町の**安全にとって**は大切な事だ。

・繰り返し練習する事は、外国語の**勉強にとって**大切だ。

にのあしをふむ【二の足を踏む】

恐い、やりたくないなどの理由で、必要な事や新しい事などをしようとしない。

・外へ出ない母は、食事に行こうと言っても**二の足を踏む**。

・**二の足を踏んで**いた若い社員は、やってみようと言うと怖そうに機械の前へ進んだ。

にのまい【二の舞】

自分やほかの人が前にした失敗などと同じような失敗。

・自分の**二の舞**にならないようにと、友人は社員に注意した。

・相手との話し合いは、前の**二の舞**でうまくいかなかった。

にぶい【鈍い】→するどい①、②

にぶる【鈍る】

① 年を取って、また、使わない時間が長くなって、体の動きや考える速さが遅くなる。